

Interview

100年磨き続けた技術を、次世代へ繋ぐデジタル化

——現場の「使い勝手」を追求し、働きやすいものづくり企業へ

舞鶴市で創業し108年の歴史をもつ有限会社舞鶴鉄工所（通称：MAITETSU）。10ミクロン単位の精密部品から約1メートルまでの部品を製造している。今回は、補助金を活用して電子帳票システム「i-Reporter」を導入。事務作業の効率化と「魅力ある職場づくり」を両立された取組についてお話を伺いました。

現場の「使いやすさ」が変えた日報業務

MAITETSUの現場では、東証プライム上場の企業様からご要望いただく多種多様な製品を扱うため、日々膨大な数の日報や検査報告書が発生します。これまでは紙に手書きした内容を、業務終了後に改めて表計算ソフトへ転記する作業に、毎日30分ほどの時間を費やしていました。「現場での入力しやすさ」を最優先に考え、iPadによる直感的なデジタル入力を導入したことで、この転記作業が完全に不要となりました。現在は試験運用中ながら、大幅な事務作業削減を実現しただけでなく、現場での図面確認のペーパーレス化によるコスト削減にも繋がっています。

「見える化」の先にある 確実な納期管理と信頼

デジタル化の歩みは、単なる事務効率化に留まりません。現在は、生産計画の精度をさらに高め、社内のリソースをリアルタイムで可視化する「スケジューラー」の導入も検討されています。

熟練の職人による勘や経験に頼るだけでなく、最新のシステムによって進捗を客観的に把握することで、より確実な納期管理と効率的な生産体制の構築を目指しています。伝統ある確かな技術を、最新の仕組みで守り抜こうとするこの姿勢こそが、同社の新たな競争力となっています。

働きやすさへの投資が、 未来の技術者を育てる

深刻な採用難という課題に正面から向き合う同社が、デジタル活用と並行して力を入れているのが「働く環境」の抜本的なアップデートです。休憩室や更衣室の全面的な改修、現場での洗濯機の導入といった施設整備プロジェクトを精力的に進めています。さらに、VPNを活用したりリモート勤務環境を整えるなど、場所に縛られない柔軟な働き方にもいち早く対応。デジタル化で生まれた時間や余力を、従業員一人ひとりが生き生きと活躍できる「魅力ある職場」への投資へと還元していきます。

伝統を革新し、地域の インフラを支え続ける

100年磨き続けた技術を大切にしながら、DXの活用など新しい知見を積極的に取り入れるMAITETSU。資材価格の高騰といった外部環境の変化を注視しつつ、補助金を有効に活用しながら、次世代の技術者が誇りを持って働ける「魅力あるものづくり企業」への挑戦を止めることはありません。



PROFILE



有限会社舞鶴鉄工所
代表取締役 高橋宗一郎
創業：1918年5月

本社：舞鶴市字松陰小字島崎29の6
熟練の金属加工技術を継承しつつ、現場主導のデジタル化や施設改修を積極的に推進。伝統あるモノづくりの現場に最新の環境整備を掛け合わせ、誰もが働きやすい職場づくりに挑んでいる。